

ご用命・お問い合わせ先  
アペックス産業株式会社  
電話 03-3455-6474  
FAX 03-3455-6558



〈詳しい案内は当社のホームページをご覧ください〉  
URL <https://www.apex-sangyo.jp>

●切り取って保存してご利用ください。

# APEX CLUB

アペックス産業株式会社

'26/5

第61号

## 『APEX CLUB』

発行 2026年5月1日(通算61号)  
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会  
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4  
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558  
URL <https://www.apex-sangyo.jp>

発行人 元木 貢  
編集委員会  
編集委員長 篠原 綾乃  
編集委員 伊東 由里絵 小池 清文 元木 典子  
DTP・印刷 (有)協立印刷社

## ギャラリー 画家 桜井 浜江

### ひとこと

桜井先生は東京女子医科大学職員美術部の顧問として指導に当たられました。アトリエのグループ展「ドレ展」を毎年開催し、第38回の「さよならドレ展」が最後となりました。先生のご自宅兼アトリエはその後マンションが建てられ、1階に三鷹市桜井浜江記念市民ギャラリーがオープンしました。弟子の黒沢裕子、堀 桂子らが中心となって2年に1度「綾展」を同ギャラリーで開催しています。



初期 壺 1946年



中期 樹 1961年



最後のドレ展 2011年



後期 富岳(絶筆) 2002年

### 作者プロフィール

1908年(明治41年)山形市生まれ、1926年、結婚を勧める親の反対を押し切って、家出同様の状態で上京し、1928年～1930年まで「1930年協会洋画研究所」で、里見勝蔵らの指導を受ける。里見が率いる独立美術協会と、後に三岸節子らとともに結成した女流画家協会を主な発表の舞台として、女性洋画家の先駆けとして活躍した。1931年(昭和6年)の独立美術協会展では初回から入選したほか、1948年第16回独立展独立賞などを受賞した。作家志望である夫の秋沢三郎と文学仲間だった太宰治や檀一雄と交流があり、太宰の短編『饗応夫人』のモデルとなったとされる。2007年(平成19年)死去。

### ヒトスジシマカの対策

蚊は湿気の多い場所や、物陰に潜むため、やぶ、植栽を剪定、草むらの草刈りをして風通しを良くし、潜み場所をなくしましょう。  
扉や窓の開放時間はできるだけ短くし、窓には網戸を設置しましょう。網戸の網は細かい規格のものを使用することで小さな虫でも侵入を防ぐことができます。  
外に出る際は長袖を着用し、皮膚の露出を避け、虫よけや殺虫剤を使用しましょう。虫よけや殺虫剤は様々な種類があり、虫よけならスプレータイプやジェルタイプ、シートタイプなどがあります。この他にも、刺されない空間を作るなら古くからある蚊取り線香やスプレータイプの屋外用殺虫剤があります。  
屋内で蚊が出没する場合は専用の殺虫剤を使用しましょう。蚊とり線香や、液体式、プッシュ式等、様々な

### おじやま虫

気温が上がりはじめ、暑い季節になると、どこからともなく現れる蚊。特に藪や木陰などに隠れるヒトスジシマカは、デング熱などの感染症を媒介する危険な存在です。

### 蚊の発生を抑制する幼虫対策

蚊の発生を抑制するには、幼虫(ボウフラ)対策が重要となります。蚊はちよとした溜まり水植木鉢の受け皿、バケツ、空き缶、排水溝、ビニールシートのくぼみなどでも産卵します。  
よく刺される場所の周辺をよく見てみると、前述した箇所が蚊の発生源となっている場合が多いため、片付けを行い、溜まり水をなくしましょう。  
また、雨水枡等、片付けの行えない場所には、昆虫成長抑制剤(IGR)を使用して、成虫になる前に殺虫することも重要です。

### むし籠

#### 日本ペストロジー学会に参加して

2025年11月6日、7日に「第41回日本ペストロジー学会 新潟大会」が開催されました。

一般講演では、ネズミやダニ、ゴキブリなど様々な害虫・害獣の発表がありました。また、基調講演は「トキの再導入」と「鳥インフルエンザ」についての興味深いお話でした。

今回、弊社篠原が「赤外線センサーを活用したネズミ防除管理の取組み」というテーマで発表させていただきました。今回が初めての学会発表でしたが、共同研究者のご協力もあり、無事発表することができました。今回の発表で紹介した赤外線センサーは日本では未導入の製品ということもあり、興味を持ってくださった方からご質問等をいくつかいただきました。発表者として学会に参加できたことを嬉しく



味を持ってくださった方からご質問等をいくつかいただきました。発表者として学会に参加できたことを嬉しく

思います。この他の発表でもセンサーカメラ等の製品を使用した事例報告や発表がなされ、とても有意義な学会となりました。

#### 母校の演奏会に参加して

昨年2025年の12月21日、私の出身校である麻布大学吹奏楽部の第44回定期演奏会にOBとして参加させていただきました。

今回の演奏会は、長年同吹奏楽部で指揮者及び講師をしてくださった福島正和先生の一周忌追悼演奏としてOB・OGが現役生に加わるという企画のものでした。

演奏会に参加することは大変楽しみでしたが、私の趣味であるトランペットは、現役時代からはとも曲を吹くレベルには程遠い状態でした。

そこでリハビリとして毎日欠かさず少しでも楽器を吹くという課題を課して、なんとか一曲吹き通すだけの体力をつけることができました。

本番ではなんとか曲を吹き切ることはできたものの、やはり大事な場面で音がでないこともちらほら起こってしまいました。

ただ、仲間と演奏できる楽しさは格別で、やはりこの世界からは抜けられないなど改めて思う演奏会でした。

### 虫めがね

#### アペックスのSDGsの取組み

SDGsは人類が2030年までに達成すべき17の目標です。当社は(公社)日本ペストコントロール協会・東京都ペストコントロール協会会員として次の目標に関わりがあります。

#### 目標3 「すべての人に健康と福祉を」

- ・1986年害虫相談所開設 都民から1年間で1万2千件を上回る害虫相談(2025年)
- ・シクハハウスなど化学物質による健康被害を防止するため、2002年にIPM宣言を行い、殺虫剤や殺鼠剤の使用を極力減らし、捕獲器などによる物理的防除や環境整備、侵入防止など様々な方法による総合的有害生物防除(IPM)実践
- ・2011年9月、東日本大震災で冷凍倉庫のハエ駆除作業と瓦礫の消毒作業
- ・都内25公園で蚊のサーベイランス(2014)
- ・2014年代々木公園においてデング熱を媒介する蚊の駆除を実施
- ・2016年新潟県の高病原性鳥インフルエンザに出勤し、蔓延防止のため車両消毒
- ・2019年10月、台風19号により多摩川が内水氾濫、被災家屋の消毒作業を実施
- ・2020年～2023年新型コロナウイルスで救急車及び新型コロナウイルス感染症患者待機施設・ホテルの消毒

#### 目標13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

- ・特定外来生物の対策でセアカコケグモ(1995年)やヒアリ(2017年)の調査・駆除

常夏の国で学んだ！  
「マレーシア・タイム」の流儀

アース製菓株式会社 角野 智紀

過去にマレーシアで働いたことがある。日系殺虫剤メーカーで、現地スタッフ27名を率いるマネージャーとしての日々は、異文化コミュニケーションの連続だった。私のチームは、中華系、インド系、そして圧倒的多数のマレー系で構成された。まさに人種多岐な。今回は、特に日本とのギャップが大きかった、彼らのゆるい働き方について紹介したい。

マレーシアでまず知っておくべきは、国教であるイスラム教の存在だ。彼らにとって、礼拝は就業時間中でも最優先事項。たとえ大事な会議の真っ最中でも、礼拝の時間になればお構いなしに席を立

幼虫期間の長い  
蚊の記録

金沢大学医学名誉教授 岡澤 孝雄

以前蚊の寿命はどの位ですかと尋ねられたことがあります。蚊は卵→幼虫(1、4令)→蛹→成虫と生育する完全変態の昆虫です。雌成虫は長く生きればその間に何度も吸血し沢山の卵を産むことができ、成虫の長生きは子供をたくさん作るのにプラスに働きます。一方幼虫期間が長くなることは世代の日数が延びることになり子孫を多く残すことにはマイナスに働きます。従って多くの蚊では幼虫は早く成長する戦略をとります。夏にヒトスジシマカやアカイエカ幼虫に餌を十分与え飼育すれば10日程で蛹化します。温帯では幼虫で越冬する種もありますが、冬の低温が終り生育に適した季節が来たらすばやく成長して蛹になります。幼虫期が長びく主な要因は低温と餌の不足です。

色々な蚊を飼育してきましたが驚くほど長い幼虫期間を持つ蚊に出会いました。マレーシアで穴のある竹に棲むオオカの一種の1令幼虫4匹を入手し自宅の居間で



参考  
石川県・金沢市  
金沢大学医学名誉教授  
金沢大学医薬保健研究域医学系協力研究員

個別飼育をしました。オオカ幼虫は捕食性なので個別飼育で、餌は生きた蚊幼虫、ヌカカ幼虫、ユスリカ幼虫を与えました。餌を与えても何日も捕食せず、結果として成長も遅れました。4匹の1令幼虫のうち1匹は飼いはじめ464日後に4令で死亡、残りの3匹は567日、570日、587日後に蛹になり数日後に成虫になりました。日本の冬を2回越し、約1.5年余の幼虫期間でした。蚊の寿命に幼虫期間が含まれるのであれば、随分長生きの蚊であり驚きの蚊でありました。



つ。さらに、約1か月間の断食月「ラマダン」期間は、彼らにとって大っぴらなおサボリタイムと化す。体力の消耗を理由に、普段にも増して仕事の手が止まる。最初はイライラしたが、「彼らにとってもこれは修行期間なのだ」と悟ってからは私も「Never mind (気にしない)」の精神で乗り切った。

彼らの行動原理はとてシンプル。キーワードは「Family comes first」で全てにおいて家族が最優先。仕事に平気で子どもを送り迎えに行ったり、急な家族の事情で休暇(MCII病欠)を取ったりするのは日常茶飯事。そして、彼らの代名詞とも言えるのが「マレーシア・タイム」。これはマレーシア独自の時間感覚のことで、時間には超が付くほどルーズ。遅刻や無断欠勤、約束のすっぽかしは当たり前で、電話口では「On the way (向かっている最中)」を連呼

するが、それで来た試しはない。休憩も長くて、仕事中でも堂々とSNSやスマホゲームに興じる。定時退社がデフォルトで、残業は一切しない。定時になるとタイムレコーダーに長蛇の列ができる。私はこれを「タイムレコーダー渋滞」と呼んでいる。

ミスにしても「Sorry」と一言。それで済まなければ「Never mind (気にしないで)」で、驚くほど切り替えが早い。振り返りや再発防止策なんて考えもしないのだ。その大らかさと、いつまでも引きずらない姿勢は、もしかしたら現代の日本人が学ぶべき心の余裕なのかもしれない。

郷に入っては郷に従え。私も最後には「今日は雨が降っているから渋滞だ」という彼らの言い訳に、「Yes, I know」と笑顔で返せるようになった。マレーシアで学んだのは、完璧さを求めすぎず、文化と多様性を受け入れ、ゆるく働く楽しさなのかもしれない。



大学授業の今昔

早稲田大学名誉教授  
名古屋商科大学経営大学院(ビジネス・スクール)教授  
辻 正雄

経営大学院(ビジネス・スクール)に勤務している私は、実際の企業経営者が直面した状況を多面的に記述したケースを教材にして、日々アクティブ・ラーニングを実践しています。講師の話しを聞いて理解するという受け身の学習から、ケースに登場する経営者の課題を自らのものとして考え、グループワークにおいてメンバーと話し合いながら自らの考えを深められるよう支援する役割に徹しています。履修している科目の成績は、事前の学習成果であるアサイメントよりも授業中の発言がクラスへもたらす貢献をより高く評価するよう動機付けをしています。そのため、授業中に発言の機会を得ようと、こちらの問い掛けに



地球温暖化と2040年

東京農工大学名誉教授  
(ハーバード大学 フォガティ国際センター研究員)  
神田 尚俊

昨年の夏の猛暑は地球温暖化を実感させる夏になり、今年の夏がどんな猛暑になるのか気がかりです。気温上昇は日本でも40度に向かい、西ヨーロッパ諸国では45度に接近してきますが、原因は石油、石炭などの化石燃料(過去5億年の太陽エネルギーによる光合成)に由来する二酸化炭素の増加で、その大気中の濃度は現在も上昇中です。

温暖化の制御には二酸化炭素濃度の増加を抑制する必要がありますが、化石燃料の使用削減は国家間の利害調整が難しく、現実にはかなり困難です。このまま現況が続くと2040年頃には、大規模な地球環境の変化と気候変動が発生し、元の地球には戻れない「ティップ・リングポイント」と呼ばれる「臨界点」に達する可能性があります。

対して同時に複数の手が挙がるので、クラスの皆に発言の機会を公平に与えることに苦慮しています。AIの普及によって、アサイメントの回答にAIを活用するようになり、自らの思考を深める努力がおろそかになりかねないことを憂慮しています。そこで、自ら考えて独自の意見を導く努力を惜しまぬように、AIを活用するとしても、参考文献の参照のように、AIの回答を注記して自説を展開するように指導しています。「知識を持つていること」自体の価値は今後、急速に低下していくと思えます。より大切なことは、知っていることそのものよりも、その知識を活用して新たな価値を創造する能力を培うことだと考えます。アクティブ・ラーニングは、まさに現代社会に合致した「生きた学び」をかなえるための教育であると確信し、その推進に努めています。

性が指摘されています。

すでに、温暖化の影響で気候変動が発生し、乾燥による森林火災の大規模化、気温上昇でヒマラヤ、アルプスの氷河、南極、北極の氷床の融解が進んでいます。また、海水温の上昇で海水の蒸発量が増大し、ハリケーン、台風、サイクロンによる暴風雨の被害が巨大化しています。日本近海では海水温の上昇は顕著で、沿岸の魚種の分布に変化が発生しています。ブリ、フグは北上して北日本で漁獲が増加する一方、サケ、マスはオホーツクの北方海域に移動し、北海道では漁獲が激減しています。

地球を覆う海水量を考えると、これまで上昇した海水温を元に戻すことは科学の力でも不可能です。このまま温暖化が進むと、2040年頃に「臨界点」に達する可能性も予測され、その時に発生する自然災害と気候変動に備えた準備を今から始める必要があります。最大のリスクは食糧危機かもしれません。

むしくいず

それぞれの○の中には英文字が入り、単語になります。それでは、□に入るのはa、b、cのどれでしょう？

1 3 4 4 3 2  
4 2 1 1  
3 3 4

○の中の数字と色にも注目！  
ヒント  
ホクはSPIDER  
なんだな...



◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。  
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4  
アベックス産業(株)内 APEX CLUB 宛  
ファクシミリ番号 03-3455-6558  
令和8年8月末日(当日消印有効)  
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。

★前号の正解と当選者 (順不動)  
正解は「一日千秋」でした。  
今回の当選者は、角野 智紀様、石川 朋樹様、松原 正和様



「感染症とのもう一つの闘い」  
著者：一盛 和世  
発行：文芸社  
定価：本体2,970円(税込)  
判型：A5判  
ページ数：224P  
ISBN：978-4-535-98549-0

触覚 BOOK

著者は学生時代に「蚊が媒介する病氣」に興味を持ち、玉川大農学部卒業後、東大医科学研究所などを経て、青年海外協力隊員として25歳でサモアに赴任。その後太平洋の島嶼国に16年以上にわたり滞在して、

ファイリア症の対策に取り組んだ。蚊が媒介するファイリア症は、アフリカや中南米、太平洋諸国などの貧しい地域で約5000万人が感染。患者は差別を受けて仕事を失い、貧困に拍車をかけてきた。ロンドン大学衛生熱帯医学学校においてマリア研究で博士号取得。1992年にWHOに入り、太平洋地域での制圧計画を担当。2010、13年にWHO世界リンパ系ファイリア症制圧計画統括官。WHOが2000年にスタートした世界制圧計画は、太平洋諸島での一盛氏の経験や実績が土台の一つになっている。これまで世界17か国・地域で制圧が達成され、そのうち8か国・地域は、一盛氏が現場で対策に奔走した太平洋地域だ。2022年に国際貢献活動で功績をあげた個人や団体を顕彰する読売国際協力賞を受賞された。